

# 無痛分娩の説明と同意書

## 1. 計画無痛分娩について

あらかじめ入院日を設定し、分娩誘発をおこないながら硬膜外麻酔を施行します。陣痛促進剤を使用しても陣痛が発来しない方がいますので、原則、経産婦さんにおすすめできる方法です。前回の出産日を参考に入院日を決定します。初産婦さんで希望される場合には予定日直前またはそれ以降をお勧めいたします。

## 2. 自然陣痛発来後の無痛分娩について

自然陣痛が発来してから硬膜外麻酔カテーテルを挿入する方法です。陣痛の発来を待って麻酔を開始するので、陣痛促進剤の使用頻度は減ります。分娩が急速に進んだ場合、麻酔が間に合わない可能性があります。

## ※ 硬膜外麻酔について

硬膜外麻酔とは、背骨の中にある脊髄周囲の硬膜外腔という空間に細いカテーテルを挿入し、下半身の痛みをとる麻酔法です。陣痛の痛みが完全にとれるわけではなく、苦痛を感じないレベルまで軽減することが目的です。

### 【メリット】

- ・陣痛や分娩時の痛みを軽減し、痛みによる体力の消耗をおさえます。
- ・分娩時の会陰縫合時に痛みがありません。
- ・緊急時、帝王切開が必要となった場合、速やかに手術が可能です。

### 【デメリット】

- ・カテーテル挿入時に痛みがある場合があります。
- ・カテーテル挿入が困難な場合があります（その際には無痛分娩はできません）。
- ・効果が不十分な場合、再挿入となることがあります。

- ・麻酔後は歩行が不安定になるため、排尿は導尿または膀胱留置カテーテルにより行います。
- ・微弱陣痛になりやすくなるため、陣痛促進剤の使用や吸引・鉗子分娩が必要になることがあります（その場合、肛門・直腸裂傷の頻度がやや上昇します）。
- ・分娩時間が長くなることがあります（その場合、産後の排尿障害や下肢神経障害のリスクが高くなります）。

以上の説明を聞き、無痛分娩を希望します。

氏名 \_\_\_\_\_ 署名日（西暦） \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

説明医師 \_\_\_\_\_



## 硬膜外麻酔同意書

### 硬膜外麻酔の方法

- ① 分娩台の上で横になり、背中を丸くします。
- ② 背中を消毒し、腰に局所麻酔を行った後、カテーテルを導入するための針硬膜外腔まで進めます。
- ③ 針を通してカテーテルを硬膜外腔に挿入し、カテーテルが硬膜外腔にしっかり入ったら針を抜きます。
- ④ 麻酔薬を注入して痛みをとります。

## 硬膜外麻酔のリスク

- ① 悪心・嘔吐（30-50%）：食事制限が必要になります。
- ② 低血圧：定期的に血圧を測定。点滴、必要時血圧を上げる薬を投与します。
- ③ 発熱：原因不明だが比較的好く見られます。血液検査などを行い慎重に経過観察します。
- ④ 麻酔開始直後に陣痛が強くなり、胎児心拍の変動が起こることがある（1～2%）ため、胎児心拍モニターを行います。1時間以内に強い陣痛は自然におさまり、麻酔を続けても再発はしないとされています。
- ⑤ くも膜下（硬膜外より奥にはいってしまう）注入による頭痛：安静、鎮痛剤投与を行います（治るまで数日かかることもあります）。
- ⑥ 全脊椎麻酔（1%以下）：人工呼吸が必要になります。
- ⑦ 局所麻酔薬によるアレルギー（1%以下）：症状に応じて投薬を行います。硬膜外麻酔の続行ができなくなる場合もあります。
- ⑧ 出血、感染（硬膜外血腫、膿瘍）：穿刺後時間がたってから背部に強い痛みが出る場合があります。下肢のしびれが強く、長引く場合、専門診療科の診察が必要になる場合があります。
- ⑨ 緊急性や時間帯によっては対応できない（実施できない）場合があります。

以上の説明を受け、理解納得し、硬膜外麻酔を受けることに同意します。

氏名 \_\_\_\_\_ 署名日（西暦） \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

説明医師 \_\_\_\_\_



※ 下記の表は、英国産科麻酔科学会が運営する無痛分娩情報提供サイトによる無痛分娩で発生しうる合併症についての情報です。

## 無痛分娩で発生しうる合併症

合併症の種類	発生頻度	どのくらい起きやすいか
硬膜外鎮痛が十分効かず (カテーテル入れ替えも含め) 他の方法での鎮痛が必要になる	8人に1人	よく起きる
硬膜外鎮痛が帝王切開の麻酔には不十分で 全身麻酔が必要になること	20人に1人	ときどき
低血圧	50人に1人	たまに
ひどい頭痛	100人に1人 (硬膜外麻酔) 100~200人に1人 (脊髄くも膜下麻酔)	一般的ではない
神経損傷(足のしびれ、脱力)	一時的 1000人に1人	稀
6カ月以上効果残存	永久 13000人に1人	稀
硬膜外膿瘍・感染	50000人に1人	非常に稀
髄膜炎	10万人に1人	非常に稀
硬膜外血腫	17万人に1人	非常に稀
重度神経障害・麻痺	25万人に1人	極端に稀